

ハンガーゼロ・ニュース

わたしから始める、世界が変わる

Hunger Zero News 8

No.421 | 2025 |



P.7/ミャンマー地震被災者に
緊急支援物資を配布しました

Hunger Zero News 今月号の内容

「世界食料デー2025」のお知らせ	P.2
キングダムビジネス水野新代表に聞く	P.3
南アフリカ活動地視察 ジェロムスタッフの報告	P.4-5
紫園香親善大使「平和音楽祭」	P.6
ミャンマー地震緊急支援報告他	P.7

2025世界食料デー テーマ曲
♪「Living with you」
by Manamiさん
ハンガーゼロ親善大使



2025 世界食料デー Living with you

～つながろう、世界の家族～

9月～11月 全国各地で世界食料デー大会や様々な支援集会、イベントが開催されます。「1食分募金」にもご協力ください。



2024食料デー京都大会

この世界には、多くの苦しみ、悲しみが蔓延しています。特に、飢餓や貧困、また戦争や紛争によって痛み傷つく人々は後を断ちません。そのような方々に対する私たちの愛ある行動が慰めや励ましとなり、また原因の解決へとつながることを私たちは願っています。痛み苦しむ方々に目を向け、関心を持ち続け、募金をすること、周りの人に世界の現状を伝えること…そんな小さく思える一歩が、世界の人々と共に生きる愛の連鎖として広がっていくと信じています。

今年はこのテーマに合わせてイラストレーターみなみななみさんの素敵な描き下ろし作品を使ったチラシとポスターが完成しました。また、小学生から大人まで学べるクイズ形式の小冊子や、動画（テーマ動画、講演動画など）を用意しています。ご希望の方はハンガーゼロ東京事務所（03-3518-0781 / jifhtokyo@gmail.com）までご連絡ください。

また今年も多くの方々のご協力により、北海道から沖縄まで全国の地域で、世界食料デー大会やイベントが行われます。詳しくは 9月号・10月号にてご案内します。ぜひお近くの大会にご参加ください。



講演メッセージ

2025 世界食料デー募金

今年度、支援を予定している国々での活動に用いさせていただきます



●コミュニティ開発を支援 全18ヵ国
●チャイルドサポーター実施 全4ヵ国



ニジェール
ガンビア
シエラレオネ
リベリア
ガーナ



ボリビア



コンゴ民主共和国
ザンビア
ジンバブエ
南アフリカ



パキスタン
バングラデシュ



カンボジア



フィリピン



インドネシア



エチオピア



南スーダン



ケニア



ウガンダ



ルワンダ



モザンビーク



2025年7月現在



●チャイルドサポーター 月々4,000円 たくさんの子どもたちが支援を待っています

世界で飢餓・貧困に苦しむ人々の自立支援をハンガーゼロと共に担ってくださっている協力企業「キングダムビジネス」の代表取締役役に 2025年4月に就任された水野行生さんに経緯や今後の抱負などを伺いました。

ハンガーゼロの働きの理解と支援の輪をもっと広げていきたいです

Q この事業を引き継がれた経緯を教えてください

今まで行ってきたビジネスが新型コロナと円安の影響で業績が厳しくなっていたときに、友人の紹介でハンガーゼロの清家理事長とお会いしたことがきっかけで「キングダムビジネス」を引き継ぐことになりました。

Q 会社が横浜に移転して何か変化はありましたか

関東地区のキリスト教会（支援者も含む）の方々とお会いする機会が多くなり、今まで名前だけしか知られていなかったハンガーゼロの働きを説明する機会が与えられて、関東地区の方とハンガーゼロの距離が近くなるお役に立てたのではないかと思います。

Q 今後の抱負をお聞かせください

様々な集会やイベントで商品やカレンダーを販売するスタイルは変わりませんし、全国を回りたいと思っています。ただ今までのフェアトレード商品の転売からハンガーゼロブランドの商品の販売へと移行していきたいのです。そうすることで購入してくださる方にハンガーゼロの働きを理解してもらって、ハンガーゼロが支援している国の人々や子どもたち、また海外で活動されているスタッフに関心を持ち、支援へとつながるようにしたいと考えています。

私はこれまで化粧品やプロポリスの販売などさまざまな仕事をしてきましたが、2008年に外務省主催の第4回アフリカ開発会議でマラ



7月に大阪で開催されたコンゴ民主共和国政府系の経済フォーラムにジェロムスタッフとともに出席



横浜国立大学でもたれたフェアトレードによる国際貢献について講師として登壇

ウイ共和国産の蜂蜜に出会い、とてもおいしかったので現地にも行きそれを輸入して販売することにしました。その後2014年にはケニアから、2016年には南スーダン共和国の蜂蜜を世界で初めて輸入販売しました。そうした関係で2019年に外務省から、アフリカで事業活動を行う日本企業の代表者の1人として「特使」の任命を受け、アフリカ関係の様々な催しに参加したり訪問したりする機会をいただいています。

ハンガーゼロブランドの新商品を企画

今後はアフリカなどから輸入したチョコレートや蜂蜜、コーヒー、その他をハンガーゼロブランドとして販売していきたいと考えています。試作中のチョコレートは今年秋の世界食料デーには製品として提供できると思いますし、今後は他の商品も途上国から輸入して人々の自立のお役に立てればと考えています。

Q 商品は横浜の事務所で直接購入できますか

直接購入していただけますが私が全国を回っていて事務所を留守にすることが多いので、できればネットでお願いしたいです。もちろん事前にご連絡いただければ来ていただくこともできます。※8ページに商品案内を掲載

キングダムビジネス [横浜]

〒235-0021
神奈川県横浜市磯子区岡村 1-23-12
電話：080-9126-7701
FAX：045-330-5600
ホームページ：<https://www.kingdombusiness.jp>
メール：yukiomizuno67@gmail.com



備蓄をしながら社会貢献



世界にパンを届けよう



おいしさと夢をお届けします。

株式会社パン・アキモト

パンの缶詰
since 1995

〒329-3147
栃木県那須塩原市東小屋295-4
TEL 0287-65-3351

パン・アキモト 検索

皆様から回収された救缶鳥は各地に飛んでいきました！



食料が不足している、国内外の豪雨・地震等の災害被災地や、海外の飢餓地域等へ送られました。



ガブリエルチャリティの事務所建物（左から2番目モニカ代表）



研修を通じて人々の潜在能力を引き出す

ハンガー・ゼロは、アフリカ各国での様々な活動を支援しています。アフリカ大陸の活動拠点を訪れるたびに、それぞれの団体の取り組みや活動のユニークさに驚かされます。5月に今年度から支援を始める南アフリカの活動地を訪問したジェロム・カセバスタッフが報告します。

ガブリエルチャリティの役割

南アフリカにおける「ガブリエルチャリティ」（FHIF加盟団体）の活動を報告します。彼らの活動によって、そこに住む人々の人生が大きく変革しました。活動地域は、ダーバンとヨハネスブルグの間に位置し、主にズールー族が居住するバークビルの地域です。「ガブリエルチャリティ」（以下GC）は、この地域の村人たちへの研修によって潜在能力を引き出すことに焦点を当てていますが、研修後に人々に何をすべきかを指示しません。ただ、正しい考え方と貧困の根本原因について、一人一人に考えてもらうことに重点を置いています。村人が自立し、外部からの援助に頼らず、地域の資源を活用してコミュニティを築き、神から与えられた可能性を認識するよう促すことを大切にしています。

コミュニティのリーダーシップと協働の育成

VOC（ビジョン・オブ・コミュニティ＝住民主導による地域開発）研修で学んだことを基礎にして、FHIFは農村部や町



研修を終えた農村部の村人たち

で大切な役割を担っているリーダーたちを対象にした研修を開始しました。注目すべき成果の一つは、考えの異なる23名のリーダーと研修会を行なったことです。研修後、これらのリーダーたちはそれぞれの違いを乗り越え、早婚、薬物乱用、家庭内暴力といったコミュニティが抱えている緊急の課題に取り組むために協力し始めました。

研修の修了証書を受け取る参加者
ジェロム®とFHIFランディ代表®

それは多くのアフリカの農村部で主要な収入源となっている伝統的な農業にのみ焦点を当てるのではなく、与えられた可能性を認識し、コミュニティ内で互いに支え合うことを目的とした多様な取り組みにつながりました。伝統的な工芸品を作り始めた人もいれば、農業に専念したり、貧困地域の子どもたちを支援する役割を担ったりした人もいました。

バークビル地域の希望の光 アンディスワさん

4児の母であるアンディスワ・ムゾツォさんは、19歳で結婚をしてバークビルに住んでいました。しかし、夫が仕事で

高知ペンテコステ教会隣接のクリニック

医療法人オリーブ



大川内科

循環器内科・内科・老年内科

院長 大川 真理



幼稚園の教室



パークビルの風景と幼稚園⑥



アンディスワさんが開いた幼稚園の園児たちと

ヨハネスブルグへ移住すると彼女は様々な困難に心も体も限界にまで達していました。アンディスワさんの窮状をGCのマバララ牧師が聞き、数回のカウンセリングを通して、彼女が抱える5年間の涙、痛み、飢え、フラストレーションを知りました。夫の不在も重なり、不安が増大していましたが、GCスタッフが彼女を励まし、心の傷が癒されていきました。

GCのスタッフは彼女のために祈り続ける中で、彼女が夫や夫の家族による虐待が原因で重度の心臓病を患っていて、彼女の命が危ういと医師が警告していることを知りました。

家族と未来の再建

GCはヨハネスブルグにいる彼女の夫に連絡を取りました。夫は妻の苦しさの真実を謙虚に聞き、心から謝罪し、翌日には帰宅することを約束しました。翌日、GCリーダーとアンディスワさんと夫の間で、話し合いがもたれ、夫は決意を新たにして家に戻り、言葉だけでなく、真摯な行動で彼女への誓いを新たにしました。翌日、彼はGCのメンバーを家族全員に会わせ、叔母、母、叔父、そして年長の子どもの間で話し合いを持ちました。

アンディスワさんは次の大きな一歩を踏み出す準備を始めます。彼女はVOC研修に参加し、家族と調和のとれた生活の中で、新たなキャリアをスタートさせました。義理の

両親の援助で小さな家を手に入れ、GCと教会の支援を得て、幼児発達の研修を受けました。夫は約束を守り、愛情深いパートナーとして彼女を支え続けています。

地域社会への貢献

カウンセリングから始まった彼女の人生は完全に変化し、彼女が生まれ持った強みを活かす力を得ました。VOC研修を修了した後、彼女は子育ての大切さに気付き、幼稚園設立のために奔走しました。この地域では多くの親が農場などで働き、子どもたちは置き去りにされてしまいます。費用がかかる可能性はありましたが、コミュニティにとって価値のあるものを作りたいという強い思いから、無給で働くこともいとませんでした。夫の家族は、この重要な事業を始めるための小さな部屋を提供してくれました。

地域の幼稚園に子どもたちを保育と教育のために連れてくる親が増えました。幼稚園の費用を支払えない人たちは食材で支払い、それを使ってすべての子どもたちが栄養を摂取できるようにしています。限られた資源にもかかわらず、親たちは食料を提供し続け、アンディスワさんをはじめとするボランティアたちが協力して子どもたちに食事を提供しています。この取り組みは、低所得地域の人々が、社会的・経済的地位に関わらず、協力と共通の目的を通して地域のニーズに応えることができることを示しています。

アンディスワさんは教会の日曜学校の先生としても次世代を育てています。現在、菜園と養鶏プロジェクトを備えた学校を建設する計画を立てています。彼女の歩みは、困難な中でも、希望、支援、そして信仰が驚くべき変革をもたらすことができることを力強く示しています。

彼女は「みなさんに初めて会った日、私はもっと長く生きられるという希望を見出しました。そして神の愛を感じました。あなた方の祈りの声が聞こえてきます。」今では何度もスタッフたちにこう言います。「私の命を救ってくれてありがとう」。

この活動は「ハンガーゼロサポーター支援」によって支えられています。皆様のご協力を感謝いたします。





ピース・クラシック・フェスティバル2025

平和音楽祭「Stop The War!」を捧げて

ハンガーゼロ親善大使 紫園 香



小堀英郎、森祐理、紫園香

「第3次世界大戦はもう始まっているのか・・・」

テレビに映し出されたウクライナ・キーウの爆撃で「お母さんはどこ?」と泣きながら訊く男の子に、呆然とした若い兵士が「お母さんは大丈夫だから」と抱きしめて励ましている映像。きっと彼の母は爆撃で落命・・・彼はこれからどうやって生きていくのだろう・・・彼の幼いプクツとしたホッペの輪郭に、幼かった我が息子を重ね合わせ、涙が止まらなかった。

私の平和音楽祭へ思いはここから始まっている。主催者のいのちのこば社ライフクリエーションからお声がけを頂き、プロデューサーとして動き始めたのが2024年4月。1年間の準備期間を経て、2025年5月3日、クラシックの殿堂・日本製鉄「紀尾井ホール」において平和音楽祭は開催された。日本を代表するクラシックアーティストであり宣教者でもある錚々たる面々が出演。オクサーナ・ステパニウック（ソプラノ）、稲垣俊也（バス）・ユーオーディア・アンサンブル、Duo Stella（フルート紫園香・ピアノ、菅野万利子）、小堀英郎（ピアノ）、メタ

モルフォ（フルートアンサンブル）、星野誠（指揮）&東京シモンコーラス・シモンアンサンブル、森祐理（司会・ウクライナ現地報告）、岩本遠億（平和のメッセージ）。800人の会場を埋め尽くした聴衆。まさに平和の祭典にふさわしい舞台だった。

ハンガーゼロからは総主事・近藤高史がアピールを行い、3人のハンガーゼロ親善大使（森祐理、小堀英郎、紫園香）も大活躍。

中でも森祐理のウクライナ現地報告と、ウクライナ出身ステパニウックが民族楽器ヴァンドウラを奏でながらの歌唱によって、ウクライナに深く思いを馳せることができた。フィナーレで三浦真理（作曲）・紫園香（作詞）のテーマソング「平和をうたう鳥」が出演者全員で演奏され、最後に会衆も一体となって歌われた時、ウクライナはじめ戦争で苦しむ国々に届くような素晴らしいハーモニーが生まれ、会場は深い感動に包まれた。

岩本遠億師が語ったメッセージの根幹～「平和を崩すのは簡単。『自分は悪くない』『●●が悪い』と主張すれば平和は崩れる」。人の争い・対立の原因がここにある。「私」ではなく「私たち」と祈れた時、そしてその「私たち」の中に、敵対する人を入れることができた時、世界は平和に向かって変わり始める。～私たちの日常の平和が、世界平和に結びつく瞬間だった。私たちは目を覚ましていなくてはならない。

（文中敬称略）



会場ロービーのハンガーゼロ出展ブースでスタッフとボランティア

支援地域の
子どもを支援

チャイルドサポーター

月々4,000円

支援地域の特定の子どもとつながり、地域で行われる活動をご支援頂きます。サポートチャイルドと手紙による交流が可能です。

2つの支援の方法

Child Supporter
チャイルドサポーター



▶お申込み◀

支援地域の
環境を改善

フィールドサポーター

1,000円から

月々または自由なタイミングで支援できます。サポートチャイルドとの交流はありませんが、現地での活動の様子のレポートをお送りします。



写真は全て支援物資配布の様子

ミャンマー地震被災者緊急支援 ハンガーゼロからの募金で被災家族を支援

3月28日のミャンマー地震被災者緊急支援活動について、ハンガーゼロが募金協力している韓国国際飢餓対策機構 (KFHI) 緊急支援本部からの中間報告が届きましたのでこれまでの活動概要をお知らせします。

- ① 緊急支援チームは地震直後の3月30日に現地に入り、KFHIミャンマー事務所を活動拠点として激震地のマンダレー被害地域で緊急支援活動をしています。
- ② 4月3日からマンダレーのメイミョーで被害者支援のためにベースキャンプを用意して緊急支援物資を配布しています。4月16日からはサガイン地域とアマラプーラ地域でも緊急支援物資を配布しています。
- ③ 5月13日からハンガーゼロからの支援金でマンダレーのアマラプーラ地域で353の家族に緊急支援物資を配布しました。(写真参照)
- ④ これからマンダレーのカローとサガイン地域でキリスト教会の再建支援、インレー湖にある水上家屋のブリキ屋根建築資材支援、アマラプーラ地域臨時学校再建支援などで支援活動をしします。

最後にハンガーゼロからの支援金はミャンマー、マンダレーのアマラプーラ地域の多くの被害者方に励ましになり、これから生きる希望になっています。日本の支援者様に感謝しています。ミャンマー地震被災者のために、KFHIとハンガーゼロが一つとなって支援活動ができることを私たちも喜んでいます。

(報告：7月12日／KFHI緊急支援本部)

【ハンガーゼロより】

ミャンマー地震緊急募金の受付は6月末で終了しました。

(郵便振替は7月末まで)

今後の活動は寄せていただきました募金で用いさせていただきます。ご協力を感謝いたします。

募金合計：3,795,720円



能登半島地震緊急支援 緊急募金の受付終了

2024年1月1日に発生した「能登半島地震」の被災者緊急支援活動のために温かいご支援をいただきましたことを心より感謝を申し上げます。これまでにハンガーゼロ緊急支援チームの派遣、水(協力：FUKUSHIMAいのちの水)、パンの缶詰(協力：パン・アキモト)、食料、日用品の配布、解体工事(重機チーム)や現地ボランティア団体支援(能登ヘルプ、LOVE EASTほか)、森祐理ハンガーゼロ親善大使の慰問コンサートなどの活動を通じて被災者への救援と

励ましを続けることができました。

被災地での活動は今年秋頃まで継続し、ボランティアチーム派遣、紫園香ハンガーゼロ親善大使の慰問コンサート、現地に開設されたボランティアセンター建物(LOVE EAST、能登ヘルプ関係)の改修工事支援(協力：八尾トヨ一住器)などを実施していきます。

ホームページからの募金受付は7月末で終了しました。但し郵便振替による募金は8月末までとし、9月以降に募金を寄せてくださった場合は、一般募金としてハンガーゼロ全般の活動に用いさせていただきます。

募金合計：45,653,680円 ※2025年7月16日現在まで

ハンガーゼロ(日本国際飢餓対策機構)は、イエス・キリストの精神に基づいて活動する非営利の民間海外協力団体(NGO)です。1981年に誕生して以来、世界の貧困・飢餓問題の解決のために、自立開発協力、教育支援、緊急援助、海外スタッフ派遣、飢餓啓発を行っています。現在は、国際飢餓対策機構連合(Food for the Hungry International Federation)の一員として、20カ国、国内外の80のパートナーと協力し、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国で、「こころとからだの飢餓」に応える活動をしています。



モカブレンドをリニューアル

エチオピア産の豆を中心に、酸味を抑え、少し苦味を感じる味わいに仕上げた、こだわりのブレンドです。飲みやすいけれどコーヒーらしい満足感。ホットがお勧め、アイスの場合水出しは向きません。1袋200g。

3袋セット税込3,900円(全国送料無料)。1袋は税込1,400円(送料別※送付先により変わります)

【お申込み】

ウェブでのご注文

QRコードから▶

www.kingdombusiness.jp

クレジットカードも使えます。

電話注文 / お問い合わせ:

080-9126-7701

(株)キングダムビジネス

横浜事務所 代表: 水野行生

※P.3に水野さんの紹介記事掲載



オクダデザインプロジェクト 施工例
デザイナーズガレージハウス

OKUDA DESIGN PROJECT.

貸したい時も、借りたい時も。不動産賃貸のご相談は—



株式会社
オクダコーポレーション

〒197-0003 東京都福生市熊川447-9

042(552)0102

インターネットでお部屋探し https://okuda-re.co.jp



近藤常務理事が無事帰国

近藤高史常務理事は南アフリカでの入院治療を終えて、7月10日に無事帰国しました。その後、愛知県の心臓専門病院で精密検査による経過観察を経て15日に退院しました。今後は自宅から通院してリハビリを続けます。国内外の多くの皆様からの温かい励ましとお祈りを心より感謝いたします。スタッフ一同。

ハンガーゼロ海外駐在員短信

●小西小百合(ボリビア)

現地で活動を続けています。

●王楠穎(ウクライナ)

現地で活動を続けています。

速報!大阪マラソン2026

当機構が寄付先団体に決定

チャリティランナー募集中!!

2026年2月22日(日)に開催される「大阪マラソン2026」のチャリティランナーの寄付先団体として、当機構が4年連続で選定されました。チャリティランナーのエントリー受付はすでに7月下旬から開始しております。詳しくは、検索「大阪マラソン2026」公式ホームページをご覧ください。ぜひチャリティランナーになって当機構の活動を応援ください。

チャイルドサポーター事務局より

成長記録の様式が変わります!

いつも温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

今年から成長記録の様式が変わり、新しくなります。

現在準備を進めておりますので、成長記録がお手元に届くまでもうしばらくお待ちください。お待ちしております。誠にありがとうございます。

サポーターお申込み欄 FAX072-920-2155

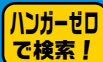
氏名			
(TEL)			
住所	〒		
申込日	年	月	日 NL421号
☒	下記から希望されるものをお申し込みください		
☐	ハンガーゼロサポーターとして協力します。 ①毎月()円(1000円) ②一時募金として 円協力します。		
☐	継続募金(JIFH サポーター)として協力します。 毎月()円(500円)		
☐	チャイルドサポーター(子ども1人毎月4,000円)の説明書(申込書)を送ってください。		
☐	郵便自動引落し申込書を送って下さい。		
☐	その他の銀行自動引落し申込書を送って下さい。		

上の申込書をコピーして、必要事項を記入の上、FAX又は郵送にて大阪事務所までお送りください。確認書類等を送らせていただきます。お電話やウェブサイトでも申し込みできます。

ハンガーゼロサポーター 現在... 53000

■発行者 清家弘久

■発行所 一般財団法人 日本国際飢餓対策機構



Webサイトアドレス http://www.hungerzero.jp

eメールアドレス general@jifh.org

フェイスブック facebookでハンガーゼロで検索

■募金方法

※各種方法で随時受付中、詳しくは電話やウェブサイト

①郵便振替 00170-9-68590 一般財団法人日本国際飢餓対策機構

②他の金融機関からの自動振替③クレジット、デジタルコンビニ



大阪 〒581-0032 八尾市弓削町 3-74-1

(広島/沖縄) TEL (072)920-2225 FAX (072)920-2155

東京 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-1 OCCビル517号室

(東北) TEL (03)3518-0781 FAX (03)3518-0782

愛知 〒460-0004 名古屋市中区新栄町 2-3 YWCAビル6F

TEL (052)265-7101 FAX (052)265-7132

USA Ainote International c/o Mr. Takehiko Fujikawa

TEL (510)568-4939

jifh.ainote@gmail.com

HP https://ainote.org

アメリカ合衆国の方はHP又QRからお申込下さい。クレジット決済が可能になりました。



Hunger Zero



JIFH



チャイルドサポーター

●Vポイントを利用して「南スーダン・マブイ小学校給食支援」ができます。現在までに1,827,548ポイント(円)のご協力(26,661件)がありました。

【本紙の送付についてのお問合せは】左記eメールアドレス、Webサイトのお問い合わせ、または大阪事務所までご連絡ください。